



ORD NEWS

大阪府研究開発型企業振興会

2012
4
No.111

CONTENT

ORD特別講演会	1~2
製品開発委員会第6回例会レポート	2
技術促進委員会「研修会」レポート	3
会員企業ご出展の展示会報告	4
ORDからのお知らせ	4

編集：企画広報部会 事務局：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号（奥野製薬工業（株）企画開発部内）
TEL 06-6961-0886 FAX 06-6963-0740 E-mail info@ord.gr.jp URL http://www.ord.gr.jp

ORD特別講演会

JAXA研究開発本部飛行技術研究センター長による



JAXAにおける飛行実証技術

～航空宇宙技術の発展に必須の基盤技術～

ORD特別講演会要旨

日 時 2012年2月20日(月)

講 演 3:00~4:45 懇親会 5:00~6:30

会 場 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)12F 第1202室

講 師 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 研究開発本部

飛行技術研究センター センター長 柳原 正明 氏

主 催 大阪府研究開発型企業振興会(ORD)



今回の講演会は、企業活動における新製品・新商品・開発・検証・実証プロセスを再確認させて頂いたORD特別講演会でした。



講師にはJAXA (宇宙航空研究開発機構) 研究開発本部、飛行技術研究センター センター長 柳原正明先生をお迎えして「JAXAにおける飛行実証技術」というテーマで平成24年2月20日 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)においてご講演頂きました。

講演は2部構成で、第1部では専門性のある「航空宇宙技術の発展に必須の基礎技術」、第2部ではビデオ中心の「JAXAの飛行実証プロジェクト」の重要性・必要性を説かれました。

まず、第1部においては「『実証技術の必要性から航空機開発の変化』に伴う基礎技術の必要性」具体的には

1. 航空技術の研究開発は、大気条件・パイロット視界・加速度等が大きく変化する複合環境である為、実際の飛行実証が必要不可欠

※実験用航空機の保有数 (2010年現在)

国・地域	機種		
	ジェット機	プロペラ機	ヘリコプター
アメリカ	70機	22機	9機
ヨーロッパ	9機	12機	4機
カナダ	2機	3機	3機
日本	0機	2機	1機

- 2.近年(1990年以降)の航空機開発は、短時間化により搭載ソフト・ハードウェアが開発機体に採用される為には、従来、地上実証でよかつたものが飛行実証のレベルが要求される様になった。

3. 我が国の航空関連産業の影響

1989年以前



1990年以後



1990年頃、B777開発から機体メーカーが行っていたサブシステムをサブシステムメーカーが行うようになった為、機器部品の売り上げ1989年時、約2,000億円であったものが、2006年に



は約1,100億円と半減

※減少理由は実験用ジェット機を保有していない為、サブシステム化に対応できていなかったが、現在平成23年度中の運用開始に向けて実験用ジェット機の改裝を行っている。

機器部品の売り上げは、大幅にダウンしているが機体・エンジンについては、大幅にアップしている。

	1989年	2006年
機体	約4,000億円	約7,200億円
エンジン	約1,400億円	約3,400億円

松浦勲（記）/ラミネート工業（株）

製品開発委員会第6回例会レポート

Nishikawa Associates

海外投資 A to Z

～海外投資成功のヒント～

製品開発委員会の第6回例会がユニケミカル(株)殿会議室において開催されました。

前半は、23年度の回顧と24年度に向けての意見交換、24年度例会の日程調整等の通常例会の後、台湾と日本の二国においてビジネスコンサルタントをされている西川企業管理顧問有限公司の代表取締役西川靖章氏をお招きし「海外投資成功のヒント～海外投資 A to Z ～と題し海外投資する上で間違ってはならない基本的な考え方を伝授して頂きました。



又海外進出に於いては現地の法律（特に会社法、労働法、契約法、倒産法、法人税法、個人所得法を注）、中国の大陸側への進出に於いては、台湾（特に人）をうまく利用すべきである。など、少し違った側面から見た重要なポイントを教えて頂きました。時間が少なすぎて勿体無い感じのセミナーでした。全体セミナーにもお招きしたいものですね。

事務局（記）

技術促進委員会「研修会」レポート

●日 時：2011年12月2日(金)

●場 所：大阪大学大学院基礎工学研究科産学連携室、大阪大学総合学術博物館、忘年会

今年最後の研修会は、大阪大学大学院基礎工学研究科産学連携室にてミニ講義を受け、同学内にある総合学術博物館待兼山修学館を見学した後、忘年会の運びとなりました。総勢20名にて大阪モノレール柴原駅にて集合した後、徒歩にて大阪大学大学院基礎工学研究科産学連携室に向かいました。

最初、大阪大学大学院基礎工学研究科産学連携室にて室長である糸崎教授に大阪大学基礎工学研究科の概要説明がありました。大阪大学は2007年に大阪外国語大学を吸収したこともあり、学部生と大学院生を足すと24,000人程度のマンモス校になります。今回は基礎工学研究科の産学連携室を訪問したわけですが、大学全体での産学連携はかなり大規模なものになります。ORDメンバーの中には既に産学連携を活用している企業もありますが、一方で、産学連携、特に大阪大学といいますと敷居を高く感じている企業があることも事実です。しかしながら、大学での基礎研究はすそ野も広く、企業と違い基礎的な内容に対し時間をかけて積み上げているように思えますし、そのノウハウは膨大で、もし企業もそれを活用できれば、日本の国全体で相当の成果を上げることができるのでと思われました。

次に徒歩にてキャンパス内を散策しながら、同学内にある大阪大学総合学術博物館待兼山修学館に

着き、伊藤研究推進員に解説していただきながら、館内を見学しました。元々、大阪大学は適塾を源流としており、医学、薬学に関して大変珍しい標本等があり、興味深く見学いたしました。博物館に来て、いつも思うことなのですが、その時には少し価値ある程度のものでも20年、30年経ったときに非常に有用な資料というものがあります。特に、工学的なものは芸術的なものに比べ粗略に扱われがちです。(おそらく工学の場合、最新が最良という部分が大きいからと思いますが…。) そういった意味で、今回、訪問させていただいた大きな歴史ある博物館に来ますと、その保存の意義の大きさと大変さに思いを巡らされます。

忘年会は大阪梅田茶屋町にて行いました。インターネットで探したお店で、皆、初めてだったのですが、茶屋町らしくモダンな居酒屋でした。結構なボリュームの前菜の後、鍋料理に舌鼓を打ちました。各テーブルにて話が弾む中、8時ごろに中締めとなり解散となりました。無事、本年も諸行事を終えることが出来ました。




最後に、お忙しい中、大阪大学大学院基礎工学研究科産学連携室 教授PhD 糸崎秀夫室長ならびに大阪大学総合学術博物館 大阪大学総合学術博物館待兼山修学館 修士 伊藤謙様をはじめ、ご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶（記）/旭テック（株）

会員企業ご出展の展示会報告

ビジネス・エンカレッジ2011

2011.12.13-14



グランキューブ大阪において当会メンバー池田泉州銀行様が主催の「ビジネス・エンカレッジ・フェア2011」が12/13-14の日程で開催されました。

当会からは、(株)三社電機製作所様(四方社長)とテクノロール(株)様(西脇会長)の両社が出展されていました。

今回は、「東日本大震災からの復興 今、日本の



力をひとつに」をテーマに被災地域の地銀の協力を得て多数の被災された企業も多数参加され元気な姿が見られました。

又日経新聞の震災写真展も併設されハンカチ片手の観賞となりました。 事務局(記)

会員報告 井前工業株式会社様

大阪スマートエネルギー・ビジネスシーズコンペで優秀賞を受賞されました。



このコンペは、新しいスマートエネルギー技術を発掘し、ビジネスを創出する為にスマートエネルギー分野のビジネスシーズを対象とした日本で初めてのコンペ事業です。

20数社の応募の中から当ORDメンバーの井前工業株式会社(井前憲司社長)様が選ばれ栄えある優秀賞を受賞されました。

他の受賞者は、大阪大学大学院、大阪市立大学大学院、近畿大学理工学部、(株)M&G エコバッテリー、五鈴精工硝子(株)、神戸市工業高等専門学校等そうそうたる大学、会社でした。



授賞式、記念発表講演にはORDメンバー数人も参加されていました。 事務局(記)

事務局よりお知らせ

ORD25周年記念誌「ORD25年の歩み」が出来上りました。



平成24年度ORD総会の日程が決まりました。

日 程 平成24年6月8日(金)
午後2時開始(予定)

場 所 国際会議場 801.802 会議室
基調講演

「地震・プレート・大阪の台地」(仮題)
九州大学大学院理学研究院
地球惑星科学部門
教授 佐野 弘好 博士